

今日は12月25日、クリスマス、イエス・キリストの誕生が私たちにもたらしたのを受け取る日です。お読みいただきました聖書の箇所には、二人の王が登場してまいります。一人は皇帝アウグストゥス、もう一人はイエス・キリストです。(キリストというのは「王」という意味です。)この二人は実に対照的です。皇帝アウグストゥスは、号令一下、当時の地中海世界の全住民を強制的に移動させる力を持っていました。税金を取り立てるための住民登録。これに反発して武装蜂起が繰り返されましたが、ことごとく鎮圧されました。

一方、イエスと呼ばれる王にはなんの力もありません。権力者のなすがままに地をさ迷う聖家族。妻が臨月であるのに命令に従って旅立たざるをえず、先祖の土地であるのに迎える者のない寄留者。宿を求めても得られず、とまどいながら陣痛の妻を引き回さざるを得ない旅人。やっとの思いで転がり込んだ洞窟で出産し、せめてもの布にくるみはしたものの、不潔な飼葉桶で代用した急ごしらえの寝床に我が子を置かざるを得ない今母になったばかりの女。自分で寝返りすら打てない、ただ人の世話にならなければ生きていけない最も無力な赤ん坊。短い描写ながら、次第に追い詰められ、居場所を極限まで失っていく家族の様子が描かれています。その後成人したイエスの歩みも右肩下がりの十字架の道行きであり、領土を拡大していく勇壮な王の姿はみじんもありません。

こうした描写には前史があります。紀元前600年代、預言者エレミヤの活動した時代です。エレミヤは嘆きの預言者、失敗の預言者でした。預言者の努めは取り成しの祈りをささげ王と民を滅亡から守ること。けれどもエレミヤは人々を守ることができませんでした。ユダは飢饉と疫病、戦争と捕囚によって滅ぼされてしまったのです。エレミヤは次のように神様に祈りました。

イスラエルの希望、苦難のときの救い主よ。なぜあなたは、この地に身を寄せている人、宿を求める旅人のようになっておられるのか。なぜあなたは、とまどい、人を救えない勇士のようになっておられるのか。主よ、あなたは我々の中におられます。我々は御名によって呼ばれています。我々を見捨てないでください。(エレミヤ書 14 : 8-9)

エレミヤは、神が救ってくださらないのは、王と民の罪があまりにも重いせいだと言いました。当時の王、マナセは、父ヒゼキヤが行った宗教改革を受け継がず、異教の神々の偶像を神殿に建造し、生贄として人間の子どもを献げ、占いやまじない、口寄せや霊媒によって国を治

めたのです(列王下 21 : 1-7)。彼は殺戮の王で多くの血が流され(列王下 21:16)、恐怖と不信感が蔓延し人心は荒廃していきました。人間は救いがたいまでに墮落した、これが神の無策の理由です。

しかし、この人間の罪に対して神はなぜ無能なのか、まるで神自身、追い詰められ身を落としていく難民のようではないか、途方にくれた旅人、「人を救えない勇士」のようではないかという問いは残るのです。エレミヤの時代は過ぎ、70年間の捕囚の後、ユダ王国は復興しましたが、人間の罪の様はなくならず、この神への問いはたびたび人々の中に持ち上がってきたに違いありません。

この問いをルカは引き継ぐのです。神が「人を救えない勇士」の姿を取るのとはなぜか。追い詰められ、居場所を失っていく無策、無力の王の姿を取られたのはなぜか?そして、その答えがイエス・キリスト、神自らが罪を担うということだったのです。人間は自分の犯す罪によって居場所を失います。アダムは楽園を失い、カインは荒野をさまよひ、イスラエルは約束の地を失いました。心もとなさ、所在なさ、ここに居ることの虚しさ、居てはいけけないのではないかという感覚。しかしイエス様はこの居場所喪失を私たちから取り上げ、ご自分のこととされました。

人は罪を深刻には考えません。よく「水に流す」と言います。忘れよう、ないことにしよう。そしてないふりをします。良心を偽る、自己を偽る——しかしこの忘却というやり方はうまくいきません。忘れられません。忘れられるものではないのです。そして多くの精神病理がここから発達します。罪とその影響は決してなくならない——聖書はこのことを正しくとらえています。このなくならない罪から人間を救い出す神の戦略——それが神自ら罪を負うということだったのです。罪の結果である居場所喪失を神が負ってくださるといふ神秘によって、はじめて私たちの未来が開かれるのです。

カルヴァンは、「われわれの悪が底知れぬものであることを認める」ように勧め、次のように祈りました。「わたしは何という罪人であろうか。わたしは余すところなく罪人である。わたしの罪の大きさは、考えることも語ることもできないほどだ。あなたの憐れみの深みによって、この罪の深みを飲みほしてください。」イエス様は私たちの罪を飲みほすために、居場所のない王としてお生まれになりました。